

## 事業概要書

事業名	奥能登珠洲における市民協働によるコミュニティ支援とアーカイブ構築				
開始日	2025年2月21日	終了日	2026年2月20日	日数	365日
団体名 (カウンターパート)	任意団体自由研究				
担当者名	松田咲香	スタッフ人数			5人

事業費総額（税込）	3,690,025円
CF事業枠	3,000,000円
その他資金	690,025円

事業目的	被災後の状況の変化とともにコミュニティの分断が進む珠洲において、地域住民が自由に利用でき、その運営にも自ら携わることのできる「居場所」づくりを行う。またこの場所を拠点に、震災で消失しつつあるまちの記憶をアーカイブ化し、今後のまちづくりに役立てることを目的とする。
事業全体の概要	<p><b>●自由研究とは</b>          自由研究は、奥能登・珠洲の地域資源・文化の継承に資する活動を行うことを目的として 2023 年 4 月 1 日に地元有志によって設立された。令和 6 年能登半島地震以降は、珠洲市宝立町鵜飼に地域住民が気軽に利用できる地域のコミュニティスペース「本町ステーション」を開設・運営し、住民交流の場を提供しているほか、定期的に各種イベントを実施している。2024 年度までは、主に本町ステーションの立ち上げと運営、イベント受け入れに注力してきたが、2025 年度からは、より主体的に住民支援のための様々な活動や取り組みを実践する場所として本町ステーションの機能を強化していく予定である。</p> <p><b>●取り組むべき課題</b>          令和 6 年能登半島地震により珠洲市は大きな被害を受けた。自由研究が拠点とする珠洲市宝立町鵜飼周辺は地震の揺れに加えて津波の被害も大きく多くの家屋が倒壊したため、現在は広域で家屋の解体作業が進んでいる。そのため、ほとんどの地域住民が応急仮設住宅に入居するか県内外に二次避難していることもあり、今後の生活再建を具体的にイメージできない状況が続いている。仮設住宅入居等によって、安心して地域での生活を送ることが難しくなっている実態が、本町ステーション来訪者の話からも窺われる状況である。在来のコミュニティの再生だけでなく、現在の新しい住環境における新たなコミュニティの再編・創出のためにも、公共施設とは異なった地域住民が安心して立ち寄れるサードプレイス的な居場所が求められている。さらに、そうした居場所の運営に住民自身が携わることのできる仕組みができれば、住民主体のコミュニティが醸成され、今後のまちづくりの機運が高まると期待される。</p> <p>一方で、大地震というカataストロフィによって過去の地域の記憶が断絶し、地区的風景はもちろん、宅地や街区の形状を思い出すことも困難になりつつある。宝立町、そして珠洲全体が復旧・復興ののち、再び魅力あるまちとして持続的に発展していくためには、震災を一種の断絶と捉えず、震災前の暮らしの履歴を踏まえたまちづくりを行なっていくことが必要である。しかし、生活の記録や記憶といった暮らしの履歴を収集する作業は、家屋解体や生活再建が最優先課題である復旧フェーズの只中にいる地域住民が行なうことは容易ではない。ただ、復旧のフェーズが終わり、生活に余裕ができるから着手する時には、既に多くの生活の記録や記憶は失われ、まちの暮らしの履歴をその後のまちづくりに活かすことが難しくなってしまう。現在の復旧のフェーズの段階から、並行して今後の復興を見据えた生活の記録や記憶の収集を草の根の立場から行い、後に復興の過程で地域住民自身が参照できるコミュニティ・アーカイ</p>

ブを構築していく必要がある。

今後の復興まちづくりにおいて、地域の過去・現在・未来といった一貫した時空間軸をもった取り組みを行なっていく上で、上記の「コミュニティ支援」と「アーカイブ構築」に一体的に取り組むことのできる拠点が必要とされていると言える。

#### ●パートナー協働プログラム対象事業

パートナー協働プログラム対象事業として、「奥能登珠洲における市民協働によるコミュニティ支援とアーカイブ構築」に取り組みたい。本事業は主に以下の3つの事業で構成される。

##### ① コミュニティスペース「本町ステーション」の活用

上述した通り、地域住民はサードプレイス的な居場所を求めていていることから、本町ステーションが「地域住民が集えるコミュニティスペース」として様々な工夫を凝らしながら活用し、継続・発展することが重要である。住民が自由に立ち寄れる交流スペースを確保し、定期的にコンサートや映画上映、ラジオ収録等の公開イベントを開催していくほか、下記②と③の取り組みの拠点としても整備し、さらに地域住民が役割を持つことで生きがいを感じられるようアルバイトスタッフとして本町ステーションの運営に参画してもらう。本町ステーションで、従来の公民館では実施が難しいイベント等を企画運営するなどして、公民館で実施される地域の公的活動に参加しにくい方や町外の方にも広く開かれた場所として役割を分けつつ、地域の公民館とも連携しながら地域活動を支えていく役割を果たしていきたいと考えている。

##### ② 震災・生活のデジタルアーカイブプロジェクトの実施

地域住民への聞き取りや資料収集、定期的なワークショップを通して、住民との協働による地域の震災・生活のデジタルアーカイブづくりを行う。また、アーカイブ構築に伴う各種資料の収集・保存・デジタル化を行うほか、成果を冊子や企画展の形で市内外に還元していく。各種作業は地域住民が参加できるイベントとしても実施し、地域住民同士の交流を深める場としながら、地域とともににつくり、地域が所有するアーカイブを目指す。

(現在検討している内容)

- ・地域住民からの聞き取り
- ・地域に散逸している古写真・古地図等の収集・デジタル化
- ・記憶地図づくりワークショップの定期開催（地域の公民館や仮設住宅集会所でも実施予定）
- ・アーカイブ構築に関するアウトリーチ活動（冊子作成や企画展の開催）
- ・域学連携（建築学生等のフィールドリサーチ、卒業設計課題受入等）

##### ③ インターネットラジオ局「本町ラジオ」の運営を通した地域の交流とアーカイブづくり

本町ステーションでは、2024年12月に地域の情報を発信するインターネットラジオ局を開設した。話し手として地域住民の方を招くなどし、被災者の生活を支え地域のピントな情報を発信する住民の窓口となるラジオ局として、継続的な運営を目指す。普段本町ステーションで話す内容とは違った切り口で話すことができるので、より相手のことを知るきっかけになることもあり、コミュニケーションが深まる。また話すことによって考えがまとまり気づきにつながると考える。収録と編集作業は、本町ステーションのスタッフと外部委託の編集スタッフによって実施する。編集作業は、録音データをAdobeソフトを使用し放送に適した尺に編集する等専門的技術が必要な工程があるため、外部委託費にて対応。放送は毎週一回インターネットアプリ（現在のところ「Spotify」を使用）にアップロードし公開する。ラジオ収録や公開された放送回を皆で視聴するイベントも実施。

(現在検討している内容)

- ・お悩みコーナー

- ・過去の災害を乗り越えてきた人から話を聞いてみるコーナー（仮設住宅での暮らし、復興に向けた取り組みなど）
- ・地域住民を招いたゲストトーク（普通に暮らしている人、経営者、職人、職業地域いろいろ）
- ・支援団体の方、解体業者など地域住民以外の人を招いたゲストトーク
- ・珠洲の今昔（②のプロジェクトでの内容をもとにしたコーナーなど）
- ・本町ステーションの日常やイベントの報告
- ・過去に本町ステーションでのイベント企画者からの番組提供による外の情報提供
- ・珠洲の音ライブラリー（ラジオでも募集を呼びかける）
- ・福祉系のお役立ち情報を話してもらうコーナー（ささえあいセンターの人など検討）
- ・行政職員にいろいろなことを聞いてみるコーナー
- ・市内で始まっているプロジェクトに関わる人を呼んで話してもらうコーナー
- ・支援団体や地域で行われる予定のイベント情報をお知らせするコーナー
- ・ラジオの取り組みをまとめた成果報告冊子の作成

#### ●期待される効果

本事業は、本町ステーションという地域のコミュニティースペースを拠点とした地元有志による地域住民との協働事業である点が特長である。地域の中に気軽に立ち寄れる居場所が形作られることで、住民相互の交流が誘発され、在来または新しいコミュニティの再編・創出が期待される。また、何より本町ステーションの運営に地域住民が携わり「使いこなす」ことで、拠点の役割を住民自身が作っていくことが期待される。

また、ラジオやデジタルアーカイブの活動を地域住民と協働で行うだけでなく、それらを常時誰もが閲覧することができるデータ・成果物としてまとめて本町ステーションが地域に開放されたコミュニティ・アーカイブの拠点として、継続的に住民の集う場となることが期待できる。

また、地区の復興会議メンバーに本町ステーションのスタッフから 2 名が選出・参加していることから、実際の復興計画に関わる合意形成のプロセスの中で、住民の意見やアーカイブ活動の成果を伝達し提言を行うことも期待できる。

#### ●事業終了後の展望

継続的に本町ステーションの運営費を工面するための次年度以降の運用計画として、今年度実施する活動プログラムの継続と並行して、以下のプログラムの実施を検討している。

- ・まちあるきツアーや地域の撮り歩きツアーの実施

地域の路地や生活空間を案内し、マスツーリズムではカバーできないまちの魅力を紹介するツアーや、ローカルフォトのようにカメラを片手に地域を歩き、参加者それぞれの視点で写真を撮り歩くツアーを検討している。まちあるきの後は、本町ステーションでワークショップを行ったり、撮影した写真の展示会を実施する等、パッケージとしての商品化を目指す。

- ・本町ステーションオリジナルグッズの開発と販売

これまでの訪問者からも珠洲でグッズ等記念になるものを購入する場所が少ないという声が寄せられていることから、本町ステーションオリジナルグッズを開発・販売し、関係人口の広がりに資する活動を目指す。

事業内容(事業種別 (コンポーネント) ごと)	裨益者 (誰が、何人)
① コミュニティースペース「本町ステーション」の運営 ・住民交流の場として週 6 日のオープン ・定期的なイベント開催（月に 2 回を予定） ・イベントはコンサートや映画上映、ラジオ収録公開、その他各種企画を検討	珠洲市民 11,441 人 (令和 6 年 11 月 30 日現在)

<p>② 震災・生活のデジタルアーカイブプロジェクトの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民からの聞き取り作業（随时、イベント的実施は月1回）</li> <li>・写真・地図等の収集・デジタル化作業（随时、イベント的実施は月1回）</li> <li>・記憶地図づくり WS（3ヶ月に1回）</li> <li>・学生による住民参加型現地調査報告会（6ヶ月に1回）</li> <li>・デジタルアーカイブプロジェクト成果報告冊子作成（1回）</li> <li>・市内での企画展（1回）</li> <li>・市外での企画展（県内で1回、県外で2回）</li> </ul>	珠洲市民 11,441 人 (令和6年11月30日現在)
<p>③ インターネットラジオ局「本町ラジオ」の運営を通した地域の交流とアーカイブづくり (Yahoo!基金助成を2025年1月まで受けているため2月から実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・週1回放送で月4回の放送（月に8人収録で11ヶ月分88人分）</li> <li>・アプリを活用した配信やインターネットラジオの活用</li> <li>・市内でのイベント情報の提供（支援団体や地域の他の団体との連携）</li> <li>・復興計画についての進捗状況共有（宝立以外の地域の人も）</li> <li>・生活に役に立つ情報提供（補助金、支援金情報、地域の飲食店情報など）</li> </ul>	珠洲市民 11,441 人 (令和6年11月30日現在) 環境が整っている人全員